

イベントステージ

日時 7月24日(日) 15:30~17:00
会場 ムーブ1階 交流広場



今年は、ムーブフェスタのテーマを「世代を越えて未来へつなぐ」とし、あらゆる年齢層が興味を持つ「食」をイベントのテーマにすることで、普段ムーブに足を運ぶことが少ない年代の人が、ムーブに関心や親しみを持ち、男女共同参画社会について考えるきっかけづくりをすること、また東日本大震災で被災された方々にエールを送ることを目的にイベントステージを開催しました。

※会場での地産地消の野菜など、売上げの一部を東日本大震災で被災された方々へ寄付しました。

第1部 15:30~16:30 地産地消イベント“美味しく食べよう!!北九州” 司会進行 ムーブフェスタ2011実行委員会

● 地元の野菜de重さ当て

抽選で選ばれた会場のみなさんに、指定したグラム数の野菜を袋詰めしてもらいました。グラム数が一番近かった方にはさらにスイカをプレゼントしました。

● 北九州市の特産物ってなあに?

会場全員参加による北九州市や近隣の特産物などのクイズをし、正解し残った10人にはトウモロコシを、その中からさらにクイズをし、正解の方にはスイカをプレゼントしました。



第2部 16:30~17:00 「戦場カメラマン 渡部 陽一さん ミニトークショー」 ナビゲーター 立山 律子さん (クロスFM DJ)

- 立山** 渡部さんのお子様は、6月に1歳のお誕生日を迎えられたと聞きましたが?
- 渡部** ちょうど1歳になったところです。お風呂に入れたり、オムツを交換したり、絵本を読んであげたり、毎日うちに帰ることが楽しみでしかたがないんです。
- 立山** 会場内の今育児をされている方にメッセージをあげるとしたら?
- 渡部** 家族が一番。戦争で苦しんでいる国の中でも、家族みんなで力を合わせてステキな時間を過ごしていました。僕にとっても、写真を撮ること以上に家族が大切です。
- 立山** 「命の大切さ」をどうやって後世に伝えていくか、渡部さんなりのアイデアやヒントがありましたら教えてください。
- 渡部** 東日本の被災地の方々や世界中で貧困や飢餓や戦争で泣いている子どもたちの姿を、写真で届けて、記録に残していくことです。皆さんも思ったことを行動で示していく、一つ一つのことを入口に話をしていくことが大切だと思います。
- 立山** 仕事をする中で、性別や年齢などに限られない、男女共同参画社会ができるためには、どのようにすればいいと思われませんか?
- 渡部** 世界の国々を見ると、女性が国の仕事や地域を引っ張っていくリーダーのポジションにいる国がたくさんあります。女性が持つ優しさ、子どもを育てることのできる思いやりを、男性たちが、言葉や行動ではなく、気持ちで理解してくれていたからだと思います。世界は女性の力、言葉で動いています。日本では女性がもっと働いて、声を出すことが必要だと思います。
- 立山** 会場のみなさまに最後にメッセージをお願いします。
- 渡部** 世界も日本も大きく動いて、涙する厳しい毎日が続いています。女性の思いやり、言葉、行動力で、どうか日本を引っ張って行ってください。これからは女性の力を必要としています。



サマーカーニバル 日時 7月16日(土) 10:00~16:20

12の団体がダンスや舞踊、演奏などパフォーマンスを繰り広げました。



市民企画事業

市民企画事業は、市民の皆様が企画・実施する手作りの市民参加型事業です。

参加団体には、会場や備品の無償提供を行っております。また、「男女共同参画社会の形成」等をテーマに実施する団体には、ムーブが事業費の一部を助成し活動を支援しました。なお、今年度は104団体・個人が参加しました。



フリーマーケット

ムーブフェスタ期間中ほぼ毎日開催。今年も手作りお菓子や雑貨などのフリーマーケットが出店。



防犯・交通安全教室 日時 7月16日(土) 13:00~14:00

第1部 「ダメっちゃ!飲酒運転」

飲酒体験メガネを使った実演で、飲酒運転がいかに危険であるかを再認識しました。まっすぐ歩けない様子に体験者本人も観客も、驚きの声をあげていました。



第2部 「あなたは防犯上手?防犯下手?」

ひったくり被害の様子を実演で見ることで、隙だらけであることに改めて気づかされました。また、役立つ防犯ベルの知識等も得られ、参加した皆さんに大好評でした。



イクメンパパの「もっと子育てを楽しもう!!」

日時 7月20日(水) 18:30~20:00
会場 ムーブ5階 大セミナールーム
講師 安藤 哲也さん (NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事)

私は企業で働きながら子育てをしてきました。その経験を活かし、当事者としての声を活かしながら、父親支援のNPOを立ち上げました。

立ち上げたばかりのころは、「何それ?!」って反応でしたが、リーマンショック以降、男性も、仕事だけしていても幸せになれないと気づきはじめました。「男性は仕事、女性が家事・育児を全て賄う」というシステム・モデル自体が金属疲労を起こしてきたのです。私たちパパがもっと自由に子育てに関われる環境を作ることが最大の子育て支援、母親支援になり、さらに本当の意味での男女共同参画社会の実現につながると思います。

「父親OSを入れ替える」「育児は義務じゃなくて権利」「あなたは船(家族)のお客さんじゃなくて主力のクルー」。そのスタンスや意識が芽生えれば「家族サービス」というような言葉は出てこないと思います。結婚したからといって、相手の人生は自分のものではなく、相手には相手の生き方、人生があるので。パパもママもそれを認めて、もっと自分の人生を大事にしてほしい。

「父親を楽しむ」これが原点です。このNPOを最終的に無くすことが私たちの目的ですから、男性の育児も当たり前になって「イクメン」なんて逆に恥ずかしくてもう使えないくらいになってほしいと思います。



第14回 ジェンダー問題調査・研究報告会

～平成22年度の公募で選ばれた研究グループがその成果を報告しました。～

7月23日(土) 14:00～15:30 会場 ムーブ5階 小セミナールーム

「大学運動部員における性別役割意識の形成にかかるスポーツの影響に関する調査」

九州国際大学 社会文化研究所 代表者 **山本 順之** | 研究分担者 **湯浅 壘道**

目的 大学運動部員の性別役割意識の形成にスポーツが与えている影響を明らかにし、特に、性別や経験年数、競技成績によるスポーツ観や性別役割意識の違いに着目する。また、それらの分析が男女共同参画社会の実現に重要な役割を担うことを提言する。

調査・研究結果から見えた課題

1. 女性の指導者数も増えてきているが、男性に比べると数は少ない。
2. 大学生のジェンダー問題についての認識が低く、知識も乏しい。

提言

1. スポーツをする上で、指導者の影響は大きいので、指導者の意識・知識改革が重要だ。
2. スポーツを長期的・継続的に指導し、実践するには環境の整備と家庭や学校、地域の連携が必要だ。
3. スポーツ技術だけでなく、性別役割意識に関わる知識の習得も目指す必要がある。

共同研究者の補足 ●共同研究者 **湯浅 壘道** (情報セキュリティ大学院大学教授)

1. 調査の回答には、地域性がある。半数以上が一人っ子の都市部に比べ、九州は2人、3人兄弟が全体の8割を占める。
2. 大学生で部活としてスポーツをしている学生と、高校で辞めた学生とでは違う可能性がある。
3. 球技系の学生中心の調査だったので、武道系の学生は違う意識を持っている可能性がある。

質疑応答

- Q1. 女性がマネージャーになる理由は?**
種目に関係無く、スポーツに関わり、そのサポートをしたかったからという理由が多い。
- Q2. 大学生の運動部員数は減少しているのか?**
スポーツや文化系の部の組織率は年々低下しているが、サッカー部は増えている。
- Q3. 地域でスポーツを勧める方法**
施設の貸し出しや、スポーツ関係者による指導など、大学がうまく地域の方と連携していけばと考えている。

コメンテーター ●井谷 恵子 (京都教育大学教授)



スポーツが性別役割意識にどのような影響を与えるかという調査だが、ジェンダー意識は長い間の色々な影響の結果であるので、単純にAだからBであるという風に結論づけることは出来ない。また、結婚をすることが前提の質問があったので、もう少し幅広い選択があると良かった。

力や体格では男性が有利かもしれないが、なでしこJAPANの活躍を見ると、テクニクに関しては決して男性に劣らない。経験やテクニクが物を言うからこそスポーツは面白いのだし、そこが焦点化されなければならないと思う。これまでは脇役だった女性スポーツだが、今回のなでしこJAPANの快挙では豪快なプレイ写真が掲載され、ゲームの分析が行われるなど、漸く男性と同等に扱われるようになった。

これからはメディアやスポーツ自体が、女性選手やリーダーの姿を描き、取り上げ育てるという意識で進んでいけば、今回のなでしこJAPANの快挙はこれきりにならないと考えられる。



誌上講座

第2回

日本の次世代リーダー



日本の次世代リーダー養成塾 事務局長 **かとう あきこ 加藤 暁子**

1982年、毎日新聞に入社、福岡総局、東京本社経済部、外信部を経て香港特派員。退社後、慶応義塾大学研究員、早稲田大学客員研究員などを経て現職。4月からNPO法人九州アジア経営塾アドバイザーも兼任。

女性たちよ、タフであれ

今年も高校生との熱い夏を過ごした。全国から夢とやる気のある高校生が集まった「第8回日本の次世代リーダー養成塾」には災害救助法の適用を受けている岩手県と宮城県の高中生11人を含む165人が参加した。2週間かけて著名な講師による講義を聴講する傍ら、「ハイスクール国会」で復興会議を開き、「ニッポン復興計画」を策定した。

1人ひとりが国会議員になったつもりで4政党に分かれ、エネルギー、日本経済、次世代の育成、外交・防衛、復興などのテーマで政策を練っていった。しかし、途中で意見の食い違いから7党に分裂。その後、第1党を選び、党首が総理大臣になって、今度は与野党が協議しながら1つの復興計画を練り上げていった。永田町が5カ月経ってもできないことを高校生たちは、わずか2週間でやり遂げたのだ。

リーダー塾の参加者は、男性74人に対し女性は91人。例年、女性の応募者が男性をかなり上回っている。ハイスクール国会では、7党首のうち女性の党首は1人だけだったのが残念だったが、印象的だったのは、第1党に選ばれた男性党首のもと、その党首を支えて官房長官の役割を果たしていたのがパワフルな女性だったことだ。

彼女は米国に単身留学していて、日ごろからディベート慣れしているため他党からの質問に対して、逆に質問を返すなど蓮舂さん顔負けの切り返し方だった。一方、自分の党を束ねるため党員の意見をまんべんなく集め、時にはあまり発言をしない党員の話も聞いて政策に取り入れていった。

7党による政策発表で他党が党首による発表だったのに対し、その党だけは彼女が政策を発表した。その存在は強烈だった。そして最も票を集めた。事務局は困った。第1党の党首が総理大臣になることになっていたのだが、党首は政策発表で発言をしておらず、総理大臣としては未知数。結局、票が過半数に達していなかったことを理由に党首討論を行った。彼女は最後まで党首に様々なアドバイスをして、その党首が首相に選ばれ、復興計画をまとめあげる縁の下の力持ちの役割を果たした。

日本では、大学を卒業するまで女性が主導的な役割を

果たすことが多い。私も大学を卒業して30年経つが、当時から部活やゼミで女性がリーダーを務めていた。ところが、いったん企業に就職すると、男性優位の構造で女性がなかなか頭角を現すことができず、いまだ国内主要500社に占める女性取締役の比率は1%を下回る。しかもその4分の3は社外取締役が占めている。これに引き換え、欧州連合(EU)は今後3～4割を女性役員に登用する法案を制定する予定だ。

日本では、女性たちは大学を卒業するまで学力をつけ、夢と希望を持って大手企業に就職していく。しかし、取締役の到達するまでに淘汰されてしまう。ちょうど結婚や出産の時期と仕事が充実する時期が重なり、仕事か家庭かを天秤にかけられるケースもまだあるだろうが、私が社会人になるころに比べると育児休業制度をはじめとした様々な制度は充実している。それなのに、なぜ、女性のリーダーは数多く育たないのだろうか。

敢えて女性に厳しいことを言えば、オールラウンドプレイヤーがまだまだ育っていないため、政策決定の場に女性がほとんどいないことだ。得てして自分の好きな仕事を選んでしまいがちなこともマイナス点ではないだろう。

女性たちは、もっとタフに生きなければならないと私は思っている。企業だけでなく、様々な職場で女性たちが頭角を現すと、狭量な「男の嫉妬」に足を引っ張られ、女性側が諦めてしまうケースが多々あるのをよく耳にする。

たとえどんなことがあろうとも精神的なたくましさや身につけ、決して感情的になることなく、ケセラセラで乗り切れるだけの心の余裕をいかに持つことができるのか。真摯な態度で臨み、自分のことだけでなく、部下を厳しく育てながらも、いい面をすかさず褒めて、やる気にさせる。そして、人事異動では適材適所で部下を送り出す。人事で力を発揮できるようになったら管理職一人前だ。世の中、理不尽なことは多い。しかし、しなやかに気配りしていくタフな女性が増えたら、日本の未来は明るいに違いない。

マガジンリサイクル御礼!!

7月9日(土)～7月24日(日)

ムーブ図書・情報室の蔵書のうち、保存年限を過ぎたため除籍した雑誌を無料でお持ち帰りいただきました。毎年恒例の事業ですが、行列のできる日もあり、たくさんの方々にご利用いただきました。おかげさまで、1,494冊の本がリサイクルできました。ありがとうございました。

